

放射線科



放射線科とは、診療放射線技師が安全・迅速・的確に最良の撮影法を選択して診断・治療に役立つ画像をつくりだす部門です。

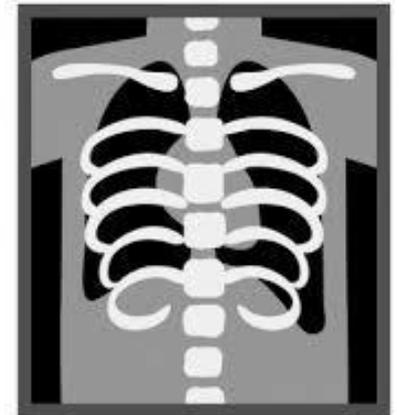
特に医療事故の防止、医療機器および装置の保守管理に注意をはらい、検査時間も極力短い時間で終われるよう努力しております。

業務内容

一般撮影

頭部・胸部・腹部・全身の骨などの撮影を行っています。
よく撮影されるのは肺の病気を見る胸部レントゲンです。
撮影はCR(コンピューテッド・ラジオグラフィ装置)の導入によりデジタル化されており、放射線科では、放射線被ばくの軽減に努めています。

日本の自然被ばく線量は平均 2.1 ミリシーベルトですが、胸のレントゲン 1 枚の被ばく線量は約 0.04 ミリシーベルトです。



X線・TV撮影

食道、胃、十二指腸、小腸などの造影撮影を行います。
バリウムなどの造影剤を用い、X線透視により



人体の内部をリアルタイムに観察します。(健診の胃透視検査はこの装置を使います)

当院では平成 29 年 9 月に TV 装置を更新しました。今までの TV 装置の機能に骨密度測定機能が付きました。これにより X 線を使った DXA 法で骨密度を測定することができるようになりました。



CT撮影

X 線を利用し体の断層(輪切り)写真を撮影する検査で、頭部や胸部・腹部の内部情報を観察できる利点があります。一般撮影ではハッキリとしない小さな病変の描出にも優れています。さらに詳しく調べるには造影剤を体内に入れて検査を行うこともあります。

当院では平成 24 年 10 月より 16 列マルチスライス CT 装置に更新されました。それにより高速撮影が可能となり短時間で広範囲の画像が取得できるようになりました。

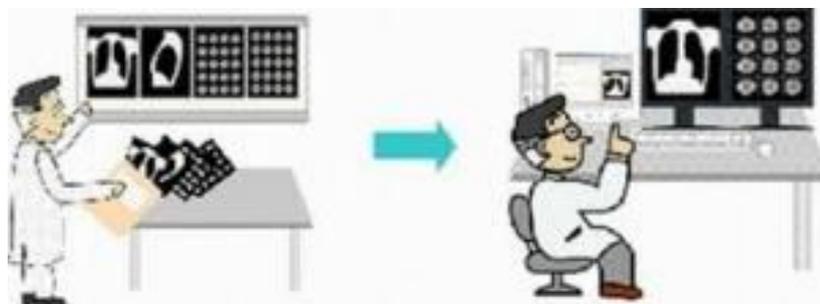
しかも、最新の技術により従来の装置より最大で 75%の被ばく線量の低減が可能となりました。

また、撮影した画像をコンピューターで処理することで立体写真(3D)が作成でき、病変の位置や形状を立体的に観察することもできます。



PACS(医療用画像管理システム)

検査で撮影された画像は従来のフィルム現像ではなく、PACS を用い、画像をデータ化しモニター上で観察します。撮影後、直ちにオンラインで配信されるため、院内のどの端末でもすぐに参照できます。



また画像のデータ管理により過去

画像をすぐに呼び出すことができ、モニター上で過去画像と並べて比較したりモニター上で画像の解析や計測が行えるようになりましたので、より高速な診断が可能となっています。

現像処理やフィルム運搬の時間が省かれ、患者様の検査による待ち時間の短縮にも繋がっています。